

< アイディア >

【ねらい】

読み取った内容と既習表現を活用して、与えられた目的・場面・状況に沿って相手意識を働かせて分かりやすく伝える力を高める。

教科書の挿絵を用いる リテリング

例えばこんなときに使ってみてはどうでしょう。

教科書の題材を使って、「読む」と「話す(やりとり)」の複数の領域にわたる活動がほしい。

生徒がリテリングを披露するとなると、発表になってしまう。



生徒への提示

なお、この授業構想例は
VISTA English Communication II
三省堂 2017年検定済み Lesson 5
ツタンカーメン王に関する説明文を参考
に作成しております。

「ツタンカーメン王特別展」開催中の博物館に来ました。グループ内で学芸員と訪問客の役割分担をして、各挿絵を説明してください。



まずは4人グループを編成します。そして各生徒の役割を明らかにしてください。

**【場所】Place**

ツタンカーメン特別展を実施する県内にある博物館

これがこの活動の「目的・場面・状況」にあたります。

**【訪問客】Visitor**

- ① 展示されてある3枚の写真(教科書の挿絵)について学芸員に質問する。
- ② 最後に感想を一言述べる。

"Visitors, hands up!"
"Who answers the questions? Hands up!"
など簡単な質問で「目的・場面・状況」を確認するとよいでしょう。

**【学芸員】Curator**

- ① 展示されてある3枚の写真(教科書の挿絵)について訪問客からの質問に答える。
- ② 説明は分かりやすい表現で行う。



即興のやりとりではなくなりますが、
パート練習の時間を確保してもいいかもしれません。

生徒は、【訪問者】【学芸員(各写真ごと)】
の計4チームに分かれて座ります。

【訪問者】同士が、質問や感想を一緒に考えます。

【学芸員】同士が、予想される質問への回答を一緒に考えます。

※**教員としてもヒントを出しやすい。苦手な生徒への配慮にもなる。**



暗唱を求めているわけではないが、簡単な表現の方が話す際に負担にならないことに触れて、**簡単に言い換えることを奨励しましょう。**

訪問客に対して、**本文に直接は書かれていないことに関する質問**を促しましょう。学芸員は、その質問には**本文から類推して答えるように求めましょう。**



いよいよ4人グループでの練習です。完成したと思ったら、先生の前で練習の成果を発揮してもらいましょう。

【中間指導】

- ① よい例の提示 考えさせるような質問をしている。
訪問者にとって分かりやすい説明になるために、学芸員が表現や順番を工夫している。
- ② 表現の転換 間違いやふさわしくない表現が多く聞こえてきたときに。
英語に直せない表現があるときに。

※生徒の実態によっては、学芸員の生徒に難しい表現や固有名詞等をヒントとして与えることがあってもよいと思います。

※教材のタイプによっては、別の場面設定が考えられます。生徒の実態等に即して、さまざまなリテリングの方法を考えましょう。

このアイディアのポイント

- 1 複数の領域にわたっている活動であり、読む目的を与えることができる。
- 2 本文から事実をつかむだけではなく、類推する習慣をつけることができる。
- 3 本文の抽象的な内容を自分の言葉で理解することができる。